



災害に備え簡易トイレを

食料と同様に準備必要

能登半島地震の被災地で、深刻な問題となったトイレ。避難者数に対して数が足りないだけでなく、断水で水が使えなくて困った人も多かった。30年以内に70〜80%の確率で起きるとされる南海トラフ地震。大規模災害を想定し、防災の専門家は、大分県内でも簡易トイレを家庭や企業で備えておくよう呼びかけている。

県女性防火・防災クラブ連合
会長の滝川智代美さん(71)は、大分市大平は10年ほど前から、段ボール箱で簡易トイレを作
り、急場をしのぐことを県内各
地の防災講話で提案している。
袋をかぶせ、凝固剤を入れて使



自宅に段ボールトイレを備えている県女性
防火・防災クラブ連合会の滝川智代美会長

うので安価で丈夫なのが特長。
滝川さんは、東日本大震災(2011年)や熊本地震(16年)の被災地を何度も視察し、トイレ問題を調査。避難所の仮設トイレには昼夜を問わず長蛇の列ができた上、段差を上がれなかつたり、水分摂取を控えて体調を崩したりした高齢者も多かったという。

一方で、大分県内の防災講話で参加者の関心が高いのは持ち出し用品や食料の備蓄のこと。一畑で用を足せばいいと言う人がいまだにいる。停電や雨の場合もあり、匂いの対策まで考えているとは思えない。排せつを我慢できるのはほんの数時間。食料と同じように普段からの備えが必要」と強調する。

滝川さんは、防災をわが事だと意識してもらうため、段ボールトイレの作り方を教える際はサイズや凝固剤の量などの数字をあえて示さず、家族構成に合わせてものを作ってもらうようにしている。簡易トイレに使うための段ボール箱の他、普段から携帯トイレや吸水ナプキンなどを個人で備えておきたい。また、水道の復旧に日数を要するほど、避難所の運営に携わる自治会や企業の役割は大きく

避難長期化のシミュレーションも



企業や学校で最新の防災用品を紹介している「50S」の首藤明子代表(左)とスタッフの大杉京子さん

なる。企業や学校で防災について指導している「50S(ゴマールエス)合同会社(同市東春日町)の首藤明子代表(52)は、「物を備える際に、避難が長期化した場合のシミュレーションも必要」と指摘する。適切なトイレ環境を維持するには▽清掃は誰がいつするか▽生理用品や手荷物が置ける清潔な台や箱はあるか▽フライパシィをどう守るか、と、さまざまな項目を継続的に管理する必要がある。

耐久性に優れて軽量なことか
ら、50Sでは、ペール缶に便座を付けて使う簡易トイレを備えることを企業などに勧めている。同社は使い方やフライパシィの守り方を動画で配信しており、制作スタッフの大杉京子(41)さんは「災害に対して関心を高めてもらえるような動画を増やしていきたい」と話している。
講座に関する問い合わせは滝川さん(090・1161・0017)、50S(Into@50s.jp)まで。
(永富希望)



〔問①〕南海トラフ地震が30年以内に起きる確率は何パーセントですか。

答え 【 _____ 】

〔問②〕避難時に使うことを想定した段ボールトイレはどのように作りますか。

答え 【 _____ 】

〔問③〕東日本大震災や熊本地震で起きたトイレ問題はどのようなものでしたか。

答え 【 _____
_____ 】

〔問④〕企業や学校で防災について指導する専門家は「避難が長期化した場合のシミュレーションも必要」と呼びかけています。日頃の備え、心がけについて考えてみましょう。

.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....
.....